

とし大韓殖産獎勵
會に於て園遊會を

組織せし大韓殖産獎勵會は本日南大門外
所遊寺に於て園遊會を催し韓人有志者數百
名に招待する事とす

仁川の就學督促 仁川小學校にては學齡兒童の未就學者二十六名、對し本年三月三十一日發布學齡兒童就學規則に依り督促狀を發せり。

●近事片々

▲字佐 川將軍近江徒鐵鑓に對する陸軍省の意見を齎らして三週閉署決定にて来る

▲司令 都及統監府に擬議する爲なりと云

▲將軍態々來る 廣所重要問題知るべき耳

▲米國 は日本の保護權に信頼し韓國に於る領事裁判權の一部を撤去するに至れり

意を表せられたるを快とす同盟の英は如何
 觀察 使會議々長内務大臣多忙の爲に撤
 生局長柳猛氏議長たらしむと些と辻褄合はぬ
 多忙 の爲に地方官會議に欠席するとは
 面黑し地方官統率者たる内相の欠席は豈に
 臨席 して議長たるが當然兎角席置を要し
 せる國而も京城日報の報する所僅々不齊也
 兎徒 の親方李康年支那を見習ひ日本品
 排斥の檄文を飛ばし 韓人は兎角眞似上手也
 韓國 で日本品を排斥しては忽ち夫子自
 身が困る猪口日本千萬に賣が茶を沸す也啖飯
 首直立し

勢なり。大に大と推し問題か起る氣魄大平
 寛容度を過ぎ輕侮の念を起しよに依る
 統監 政治の輕侮は帝國の輕侮也決して
 輕々に看過すべからず威嚴の必要全あり
 度 警告て威嚴保全を説くも當局者
 更に察みず總て片々の言をを知る。問わらむ
 併し 韓人の虫のよけには来れ返る太皇
 復位外交 取保保護國外を脱せんと平然と
 常用 國亦統監を訪ひ密議觀如何事
 遊れるに常用の腹中見透されて裏面白
 局外 見れば定用のこと事あり々々

▲志賀 重岳 戊午仁川幕府京城に於て臣が獨り觀察談を聞くの日近きにあり樂
▲志賀 氏廣州談新羅の古都最も面白し臣が連理學前觀察の講話に他及所にあらず一貫したる日本風景論の如き者を懷遠
▲五月 堀切日荒寒と大の川を取れる面白し大の川旋關して大敵と分の取組、創進如何大敵は線島一氣につらんせしむ
▲線島 今場所より東方の小結なれど到底線巧に防ぎ機を計て打ちやり美事に勝て

▲劇に 伊勢が濱の取組にて伊勢・寸勇
▲清國 大治鐵山に邦人豹の親子を生擒
▲之に 珠を占めて大々の虎豹狩を罷さ
と巻幅中に虎伏す野邊に神州男兒に虎
の大格闘を寫意を以て 廿二日申込みか
るを以て來客者は三晚其貞水得意の快舞を

外より見れば

局外より見れば元雨の心事あり々々

賀重錦氏什五目

▲志賀重昂氏廿五日二川齋京成に於て

賀氏慶州談新羅

▲志賀氏慶州談新羅の古郷最も面白し氏

買したる日本版

▲一貫したる日本風景論の如き者を韓

の川
谷間
に
て
大
小
の
石
を
集
め
て
大
小
の
石
を
集
め
て
大
小
の
石
を
集
め
て

▲五月 埽初は荒岩と大の川の取組は面白
し大の川 埽初して大敵と分を取る勘金四可

に防ぎ機を計て打

縁巧に防ぎ機を計て打ちやり美事に勝て

● 次場所は矢張り

くまじ次場所は矢張怪物玉椿が小結たら

大治城山に

● ● ●
示せり。合場所の伊勢は中々元氣があり相出

● 跡を占めて

●●之に 爪を占めて大々の虎豹符を催さ

橘主事之篤意を以

大橋主事之篤意を以て二月二日申込みた

10

京城相生町南門湯前
高等理髮館 秀床

▲特別勉強▼
京城明治町一丁目
溫麵製造所
素麵
橋口商店
▲特別勉強▼

提燈製造
並に印物一切
及氷提灯
京城露町三丁目
(本町五丁目阪本藥入口)
中尾商店

上酒二本
 今回上等別品の藝妓兩三名並に熟練せる料理人々仲居を雇入叮嚀懇切を旨とし大勉強仕候間賑々敷御來遊の程偏に奉希候
 明治町二丁目(富士村本店横)

數島樓

主人敬白

鰻蒲燒 小串一本 金五錢
 鰻蒲燒 小串一本 金三錢
 並に壽し 京城壽町三丁目松金隣

倭壽司

大連 高砂丸	大連 大沽牛莊行	山形 丸	大連 大沽牛莊行	酒田 丸	釜南浦行 第一セヨ一號	釜山出帆 元山清津・油羅行	弘前 丸	注意 此船由 釜山出帆 約五十分 前二船發到 無本
六月十八日 後一時開	五月廿六日 前五時開		五月廿八日 後一時開	五月廿八日 後一時開	號三時出	六月十日 午後一時開	六月十日 午後一時開	本館止